

令和7年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県	所在地	応募者名	活動概要
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門（個人）	埼玉県	越生町	山口 由美	<p>義父が倒れたことをきっかけに「越生（おごせ）のうめをもっと知ってもらいたい」という想いでうめ農家として就農し、現在はパレスホテルや女子栄養大学との商品開発、カフェ経営など多角的に展開している。</p> <p>また、就農希望者や営農ボランティアの受け入れ、収穫体験、農福連携、子ども食堂など地域貢献にも尽力している。</p> <p>さらに、海外で越生のうめを知ってもらうため、香港・台湾・フランスへうめ加工品の輸出の挑戦もしている。</p> <p>近年では、「全国ウメ生産者女性サミット2024」委員長として全国の女性生産者との連携強化にも取り組むほか、企業とコラボして「越生べに梅」を販売するなど越生のうめのブランド化を推進している。</p>
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性地域社会参画部門（組織）	長野県	小諸市	味工房小諸すみれ (代表 渡部 五代)	<p>味工房小諸すみれは直売所で余った農産物や自身の農産物を加工し、魅力発信したいという思いから農村女性活動推進委員や各直売所の農村女性たちにより平成17年に創設された。</p> <p>地元農産物にこだわった味噌等の加工品の製造・販売を行いつつ「母の味」をモットーに学校給食への加工品の提供、惣菜販売等に取組み、女性の社会参画や雇用創出、地産地消のモデルを築いた。</p> <p>食育活動にも力を入れ、学校の生徒が栽培した農産物を使った料理教室や、地域住民を対象とした伝統料理講習会を開催し、食と農を繋ぐ伝統料理の伝承に長年尽力している。</p> <p>地域の農村女性のリーダーとして信頼が厚く、地域農業の振興と食育活動・地産地消推進の役割を果たしている。</p>
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性登用・組織参画部門	埼玉県	比企郡滑川町	比企地域女性農業委員・農地利用最適化推進委員連絡会 (代表 杉田 京子)	<p>本会は、埼玉県比企地域内の全9市町村の女性農業委員・農地利用最適化推進委員21名で構成され、その活動の中で女性登用の推進活動として任期満了を迎える農業委員会の市町村長、農業委員会会長に対し、女性登用を求める訪問活動を実施している。その結果、平成16年5町10名で発足した本会も、令和3年度以降全9市町村で20名以上の女性農業委員・農地利用最適化推進委員が登用され続けている。</p> <p>また、他の活動では農業委員・推進委員としての知識の習得と女性の地位向上の啓発など、地域農業の振興と発展を図るために、県内外で活躍する女性農業者等の視察研修会や農地制度に関する勉強会、互いの活動から学ぶ座学研修会なども行っている。</p>
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性優良ビジネス部門	大阪府	富田林市	乾 裕佳	<p>代々農業を営む乾農園の4代目として就農し、地域特産品のなす・きゅうり、海老芋の生産に携わる。自分が経営の中心になった2015年から『販売額1億円』を目標に掲げ、農業ビジネススクールで経営管理を学び、農園の改善に着手。労働環境の改善や、作業のマニュアル化を推進して、J-GAP認証を取得した。2023年には「富田林の千両なす」が農産物で大阪府初の機能性表示食品の届出を実現。海老芋のG1登録にも尽力し「乾ブランド」の発展につなげた。これら各種の取組により、2024年に目標の販売額1億円を達成した。また、2021年には大阪府「農の匠」に認定。今後も若い手育成を始めとした地域農業振興に貢献していきたい。</p>
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性新規事業・チャレンジ部門	神奈川県	足柄上郡山北町	花坂 薫	<p>山地酪農による乳牛の飼養から加工、販売まで手掛ける岩手県のなかほら牧場で4年半の経験を積み、山北町へ移住して新規就農した。神奈川県では初めてとなる山地酪農を実践するとともに、六次産業化により付加価値を高め、少頭数でも持続可能な経営を確立している。</p> <p>就農した地域は、近年の豪雨等による急傾斜地の崩壊が問題となっているが、山地酪農はノシバの特性を利用して災害に強い山づくりにつながるため、地元の方々から注目されている。また、女性移住者の雇用や女性の就農希望者の相談や研修を受け入れるなど、女性の担い手育成に貢献している。</p>
最優秀賞	農林水産大臣賞	女性活躍応援・次世代育成支援部門	広島県	尾道市	株式会社ジョージア園芸 (代表 村上 力)	<p>因島の農業を守り、お花で人に幸せや心の豊かさを届けたい！という想いのもと、広島の瀬戸内にある因島で花苗と野菜苗を生産している。</p> <p>女性が主役となる職場作りを進め、部門リーダーを任せるとともに、主体的に動ける体制を整え、柔軟なシフトにより、安心して長く働ける環境も維持している。専務の村上理衣が主導するブリコラージュフラワー事業では、寄せ植え提案や商品開発を通して販路拡大や付加価値向上に挑戦している。新商品として提案したポットのトルコキキョウは、広島の市場でも高く評価され、得選会で銀賞を受賞した。</p> <p>地域の子供達との花植え活動や地域特産の因島スイカ栽培を開始する等、女性の活躍の場を広げ、地域と共に成長していきたい。</p>

令和7年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県	所在地	応募者名	活動概要
優秀賞	農林水産省経営局長	女性地域社会参画部門（個人）	三重県	多気郡多気町	中西 真喜子	<p>中西真喜子氏は、家業の水稻、伊勢イモ経営と並行して様々な活動に参加し、「仲間づくり」につながっていった。町村議会議員や立梅用水土地改良区理事、一般社団法人ふるさと屋の代表としても幅広く活躍する一方、地域の偉人に着目した劇団活動も展開している。</p> <p>農村RMO協議会の運営においても会長として関係者、参加者とのつながりを大切にしながら多くの人を巻き込んでいた。課題解決や地域の魅力発信の根柢には、仲間との信頼と連携があり、世代や立場を超えてともに考える活動を実現してきた。その姿勢は、勢と地域での地域づくりを進める大きな力となっている。</p>
優秀賞	農林水産省経営局長	女性地域社会参画部門（組織）	熊本県	山鹿市	幸の郷かほく (代表 古田 美生子)	<p>山鹿市岳間地域で採れる安心安全な農産物を活用した加工品(団子やこんにゃくなど)を製造し、地元の道の駅や物産館で販売している。福岡市の自然食品店とは約20年にわたり取引を継続中。令和3年から3年間は東京のマルシェでよもぎ団子やいきなり団子を販売し、手作りの味を広めてきた。</p> <p>「くまもとふるさと食の名人」の認定を受け、地域おこしに取り組むNPO法人と連携し、商品開発や郷土料理教室も実施している。料理教室は今年で10年目を迎え、県内外から毎月約20人が参加、過疎化が進む岳間の魅力を知り、ファンが増加している。</p> <p>おいしい「食」を発信し続け、「食」の力で地域に人が戻る未来を目指し活動中。</p>
優秀賞	農林水産省経営局長	女性登用・組織参画部門	千葉県	東金市	両総土地改良区 (代表 森 英介)	<p>両総土地改良区は、一級河川利根川を取水源とし、千葉県香取市外6市6町1村の農地へ農業用水を供給しており、主に、農業用施設の管理を行っている団体である。</p> <p>この地域の農業を将来にわたり持続的に発展させるには、女性の発想力や多角的な視点での意見を取り入れ、男女問わず皆で力を合わせ、知恵を出し合うことが不可欠と考え、令和5年に検討委員会を設置し協議を重ね、令和6年10月に女性理事3名を登用し、第5次男女共同参画基本計画の成果目標を達成した。</p> <p>現在は、農地の更なる大区画化や汎用化のため、女性理事が地域の旗振り役を担い「男女が共に参画する基盤整備事業の実施」に向け、事業の推進に寄与している。</p>
優秀賞	農林水産省経営局長	女性優良ビジネス部門	茨城県	猿島郡境町	株式会社光ファーム 篠塚 朋子	<p>水稻・麦・そば等を140ha以上栽培する（株）光ファームの専務取締役を務め、会社の労務・会計・水稻苗の管理を担当している。</p> <p>自らJGAP指導員資格を取得後、率先して農場の改善に努め、JGAP認証を取得。</p> <p>従業員退職をきっかけに就業規則を作成し、業務の洗い出しによる仕事の見える化、会社が求める心構え等を明確化し、技能・管理能力・仕事への姿勢等を評価する独自の人事評価制度とそれを根拠とする給与体系を構築した。その結果、従業員の自主性、モチベーションが向上し、定着と能力向上につながっている。この取組は、人手不足の農業界において高く評価され、県内外から講師の依頼があるなど、地域を超えて波及しつつある。</p>
優秀賞	農林水産省経営局長	女性新規事業・チャレンジ部門	青森県	西津軽郡鰺ヶ沢町	株式会社SATO FARM (代表 佐藤 恵美)	<p>歯科助手、農産物販売業を経て令和2年にりんご園地を知人から継承する形で就農した。令和5年には夫の大豆経営と統合して法人化し、代表取締役としてりんご部門を担当している。</p> <p>フレックスタイム制やりんご作業の省力化等働く環境を工夫することで、佐藤氏と同じ子育て世代の女性を中心に雇用を確保し、規模拡大にもつなげた。</p> <p>また、農機具店等とコラボした農業体験、自作絵本「りんごって？」の読み聞かせなどの食育活動にも積極的に取り組んでいるほか、変顔シールを貼った「べたべたりんご」、メッセージ動画付きの「QRりんご」といった創造力あふれる商品を通して、鰺ヶ沢町のりんごをPRするとともに農業の楽しさを発信している。</p>

令和7年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県	所在地	応募者名	活動概要
優秀賞	水産庁長官賞	女性新規事業・チャレンジ部門	大分県	佐伯市	水本 あゆみ	水本あゆみ氏は、水産大学校に進学したこともあり、縁あって漁師と結婚。天然のカワハギ稚魚を採捕・育成する夫の事業拡大をきっかけに、2019年から非推薦者も夫と共に漁業に従事。担い手不足や魚離れなど業界の課題を実感し、2021年に水産庁が推進する「海の宝！水産女子プロジェクト」に加入。地域水産業のPRに取組、2024年には「KAMAEおさかな研究女子会」を発足し食育活動を開始。現在、「おおいたAFF女性ネットワーク」副会長として一次産業に携わる女性の活動支援と連携強化に尽力している。2025年9月からは水産庁の水産政策審議会の特別委員にも就任した。さらに、水産業界ではまだほとんど例がない水福連携による協働モデル構築や一般企業の女性向け漁業資材の商品化にも携わり、地域水産業の発展と次世代への継承に貢献している。
優秀賞	林野庁長官賞	女性地域社会参画部門（組織）	佐賀県	佐賀市	佐賀市婦人林業研究会 (代表 山崎 栄子)	佐賀県北部に位置し、福岡県と佐賀県の県境に広がる脊振山系の西側の佐賀市富士町を中心に活動している。平成8年2月に富士町女性林業研究グループとして発足し「林業を頑張るお父さんを応援しよう！」「次世代に山の大切さを伝えよう！」を合言葉に町内から仲間が集まりスタート。現在は山に暮らす人だけでなく、町に暮らす人や有明海で海苔業を営む海の仲間が加わりその輪は広がり続けている。 この繋がりを機に山からは椎茸と柚子、海からは海苔を持ち寄って「佃煮のり」「柚子のり」を商品開発し販売。平成28年度からは富士町に自生している「ウバユリ」の球根から採れるでんぶん粉を使った商品を開発し現在年に一度数量限定販売を行っている。
優良賞	全国農業協同組合中央会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	宮城県	加美郡加美町	内海光子	水稻と花の栽培を中心だった経営をきゅうりやトマトなどの園芸品目に転換し、その後、野菜苗と花苗の生産販売事業を拡大してきた。平成8年に「なえやさん内海農園」を設立し、ホームセンター等への出荷を行う一方、庭先販売や栽培指導を通じて顧客との信頼関係を築いてきた。 起業や複数回の経営転換を成功に導いてきたのは、常に新たな目標を立てて学ぶことで身に着けた知識と技術であり、蓄積された栽培記録の緻密さは、近年の気候変動下でも安定した出荷を可能にしている。 温か大人柄とリーダーシップは、産直組織「かあちゃんの会」、JAの女性部や生活研究グループでも生かされ、地域の活気を生み出している。
優良賞	全国漁業協同組合連合会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	宮城県	本吉郡南三陸町	阿部 民子	結婚を機に南三陸町戸倉地区へ移り住み、夫と共に養殖業に従事。東日本大震災では町が壊滅的の被害を受け、一時は船にも乗れない日々が続いた。それでも「海に関わり続けたい」という想いから、自分が良いと感じた地元の水産加工品や漁師自慢の海産物をセットにした「たみこの海パック」を立ち上げる。さらに規格外の海藻を活用した海藻ふりかけワークショップを開始。コロナ禍にはキット送付によるオンライン開催が好評を博し、売上は震災前の18倍に拡大。「自分の時間を持つての働き方」を大切に、子連れ出勤や短時間勤務を取り入れ、町内における子育て世代の雇用創出や女性の社会参画にも貢献している。
優良賞	大日本水産会長賞	女性新規事業・チャレンジ部門	佐賀県	鹿島市	松本 理絵	佐賀県有明海で海苔養殖を営んでいる。近年、海苔の色落ちが課題であり、養殖した海苔に値が付かず廃棄されるものもある中で、海苔のSDGsに着目し「一枚の海苔も無駄にしない」という強い想いのもと、色落ち海苔を活用した海苔石鹼や海苔胡麻サブレなどのコラボ商品の開発や販売、海の大切さを伝える食育活動などに取り組んでいる。これらの商品は道の駅やJR駅構内、HPなどで販売され、地域の特産品として注目されている。また、色落ちした海苔に好みのトッピングを加えて作る「海苔ふりかけ作り体験」は、地域の子どもたちに人気の高い食育活動として定着しており、講義も年間20回以上行うなど、地域と海をつなぐ取組を行っている。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性地域社会参画部門（個人）	愛知県	一宮市	大島 美智子	農村生活アドバイザーの母と共に新たにイチジク部門を立ち上げ就農。出荷先を絞った完熟イチジクや色や透明感にこだわった加工品は、地元百貨店やラウンジ、機内食に採用されるなど高い評価を得ている。 平成11年より始めた地元小学校との栽培から加工まで一貫した食育活動には、地元自治会や一宮市から理解と支援を受け述べ5,600名の小学生が参加。母に続き自らアドバイザー認定を受けると、活動は周囲に求められる形で教育行政、食品衛生行政などに拡大。一宮市教育委員長など各委員や指導員に任命され、行政と連携して地域の課題に取り組む。女性のイチジク経営主として社会参画を通じ地域への食農教育の普及、発展に貢献している。

令和7年度 農山漁村女性活躍表彰 受賞個人・団体 活動概要

賞の種類	賞の名称	部門	都道府県	所在地	応募者名	活動概要
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性地域社会参画部門（組織）	徳島県	吉野川市	川島町生活改善グループ連絡協議会	昭和55年に結成された川島町生活改善グループ連絡協議会での女性達の共同活動は、地域の特産品であったニンニクの規格外品の有効活用を契機に「焼き肉のタレ」製造、販売へと発展した。原材料や製法については一切妥協せず、40年以上にわたりレシピを変えずに、安全・安心なふるさとの味を守り続けている。現在は県内外のスーパー・やふるさと納税返礼品等を通じて販売され、町の知名度向上に大きく貢献している。食農教育活動にも取組、子どもたちに農産物生産の価値や加工体験を伝えている。会員の高齢化という課題を抱えつつも、女性たちの生きがいと健康の源として、これからも活動が続けられていく。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性登用・組織参画部門	山梨県	南アルプス市	清水 景子	令和4年3月に山梨県農政部職員を退職し、同年土地改良区から農政の手腕を見込まれ要請を受託。7月から四ヶ村堰土地改良区の員外監事として就任し、県下初の女性役員の登用となった。第一回監事會から女性監事が参画したため、男性監事に緊張感が走り監事會も発議が増し議事も円滑に進行した。 地域の会合等で現在進行中の県営かんがい排水事業の必要性、進捗状況を説明、女性の土地改良区役員への参画を促している。 役員会では女性役員が1名ではなく、多くの総代・理事の登用を提案し、役員会、総代会で審議し令和6年4月から女性理事1名、総代2名が登用された。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性優良ビジネス部門	北海道	芽室町	鈴木 由加	結婚を機に専業農家として農業に従事。2001年に規格外野菜を使った農産物加工施設「すずきっちゃん」を開業し、冷凍緑菜や乾燥野菜等の製造販売を行っている。「働くお母さんや子育て、介護中のお母さんの応援団でいたい」という思いから、ミートソースや切り干し大根などの家庭料理を商品化し、開業から20年以上経った現在も地域内外の方から好評を得ている。 また、北海道指導農業士として町の食農教育事業に携わっており、町内の子どもたちの農業への理解促進に大きく貢献しているほか、JICA草の根支援プログラムへの参加や農業普及員等の研修視察の受入を行うなど、起業活動に限らず地域農業の活性化に向け積極的に活動している。
優良賞	農山漁村男女共同参画推進協議会長賞	女性新規事業・チャレンジ部門	富山県	魚津市	稗苗 史絵	稗苗史絵氏は、中山間地域で水稻を栽培する株式会社NOROSHI FARMの取締役で、スタッフ教育や労務管理を行う他、加工・直売部門「のろしうらファームキッチン」の代表として、飲食店・直売所の運営を担当。持ち前のデザイン力や保健師の職務経験を活かして開発した加工品「おやき」や地域食材を盛り込んだ「おにぎり」を飲食店やキッチンカーで販売し、里山の魅力を発信。直売所は、地域内外の農業者の商品も取り扱うアンテナショップとして農業者間や消費者との交流を進め、世代を超えた地域コミュニティの場として中山間地域に賑わいを創出している。また、魚津市農業委員や富山県農政審議会委員として、中山間地域や女性の声の農政への反映に尽力している。
優良賞	審査委員特別賞	女性地域社会参画部門（組織）	岩手県	釜石市	釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部 (代表 佐々木 淳子)	釜石湾漁業協同組合白浜浦女性部は、尾崎白浜地区および佐須地区的部員で構成されており、東日本大震災後、力強く活動する全国の女性たちと交流する中で女性部活動の可能性に改めて気づき、「自分たちでも何かしよう！浜を活気づけよう！」という気運が高まり、2017年からあかもくの加工品に力を入れた。 あかもくの加工品開発を始めるにあたり、県や復興支援員の協力の下、あかもくの生態や商品価値向上についての勉強を始め、釜石湾漁業協同組合青年部等の力を借りて成熟度合いを何度も調査してもらい、加工に適した良質なあかもく原料を確保した。そして、湯通し刻みあかもく「尾崎さんちのあかもく」が完成、統いて冷蔵保管の課題を克服した常温持ち運び可能な「あかもくふりかけ」の開発に着手し、県内の魚河岸テラス等で好評販売中である。 この商品開発への挑戦は、年間100kgの原料を用いるまでの事業に成長し、この加工品が縁となって異業種団体との交流にまで発展した。このように震災後の復興や女性部員の社会参画に大きく貢献した。